
告白

五十嵐 佳代

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

告白

【Nコード】

N8379T

【作者名】

五十嵐 佳代

【あらすじ】

いきなり呼び出された裕太は・・・美海に告白された。

返事は、どうなる？

続きは、呼んでからのお楽しみ。

美海

「好きです。私と付き合ってくださいませんか？」
今日裕太は、『放課後体育館裏に話があるから来て。』と呼び出されていた。

「え？あの、本気？」

裕太は、いきなりの告白にとまどっていた。

「はい。本気です。ダ．．．メ．．．ですか？」

「え、いや、ダメってことでは無いけど俺．．．．」

裕太は、好きな人がいたのだ。

だが、その好きな人は、裕太の友達と付き合っていた。

「あ、もしかしているんですか？好きな人．．．．」

「あ、うん。ごめん。けど。俺．．．．」

裕太は、どう答えていいのか困った。

振ってしまつと、可哀想だと思ってしまうのだ。

「．．．．いいよ。付きあおう。」

「え！？本当ですか？嬉しいです。」

裕太は、とまどいながらも彼女と付き合うことにした。

次の日

「おい、裕太！今日の放課後遊ぼうぜ！」

裕太は、仲の良い友だち、拓海に遊ぶのをさそわれた。

拓海とは、裕太の好きな人の彼氏なのだ。

「拓海今日も彼女と一緒になのかあ？」

「もちろんじゃないかあ！俺と芽依（彼女）は、いつも一緒なんだからよあ。」

「はいはい。」

八八八八八八

帰り

「よし、裕太帰るかあ〜芽依もなあ〜」

「うん。」

その時裕太の彼女が裕太の所に走ってきた。

「裕太君一緒に帰ろ。」

「おいおいおい、裕太彼女できたのかあ？良かったなあ」

「お、おう。」

「んじゃあ4人で帰るとするかあ」

拓海と芽依は、相変わらずいちゃついている。

時々、帰りながらキスもしたりする。

裕太は、それを見るたびに嫌になるのだ。

が、今は、裕太にも彼女がいる。

だから、そんなこと言ってられなかった。

「んじゃあなあ〜新婚さん。」

「あ、んぢやなあ〜」

拓海達とわかれた裕太は、彼女とふたりきりになった。

「ねえ、今度からなんて呼べばいい？」

彼女に話しかけられた。

「あ、裕太でいいよ。」

裕太は、どうでもいいような口調で返事をした。

「じゃあ、私のことは、美海って呼んでね。」

「それと、今日私の家来ない？」

「あ、うん。んじゃあ荷物置いたら行くよ。」

美海の家

「ただいまあ〜」

「おじゃまします。」

美海の家には、誰もいなかった。

「家、いつも一人なのか？」

「うん。パパとママは．．．」

美海には、両親ともいなかったのだ。

「あ、ごめん。きかんぼうが良かったかな．．．」

「ううん。いいの。あ、そういえばね私クッキー作ったの。」

「味見してくれない？」

続く．．．

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8379t/>

告白

2011年10月9日07時59分発行